

# 記念誌

国立沖縄青少年交流の家 創立40周年

NATIONAL  
OKINAWA  
YOUTH FRIENDSHIP  
CENTER

マリンブルーとがしきと

40<sup>th</sup>



渡嘉敷村とは運命共同体  
渡嘉敷村民とは共存共栄



# 記念誌

国立沖縄青少年交流の家  
創立40周年

NATIONAL  
OKINAWA  
YOUTH FRIENDSHIP  
CENTER





# 国立沖縄青少年交流の家 創立40周年記念誌

## 1 第1章 創立40周年記念式典

### 式辞

国立沖縄青少年交流の家所長

2 佐藤良一

### 挨拶

独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長

3 田中壮一郎

### 祝辞

文部科学省大臣官房審議官

4 山脇良雄

沖縄県教育委員会教育長

5 大城浩

渡嘉敷村村長

6 座間味昌茂

### 活動報告

ボランティア代表

7 鍛塚薫

8 式次第

10 式典風景

## 13 第2章 創立40周年記念祝賀会

14 式次第

### 祝辞

参議院議員

16 糸数慶子

衆議院議員

17 赤嶺政賢

18 祝賀会風景

## 23 第3章 寄稿・メッセージ

### 寄稿

ロンドンオリンピックボクシングミドル級金メダリスト

24 村田諒太

ロンドンオリンピックボクシングバンタム級銅メダリスト

25 清水聡

### メッセージ

参議院議員

26 島尻あい子

郵政民営化・防災担当大臣/衆議院議員

下地幹郎

衆議院議員

27 瑞慶覧長敏

衆議院議員

玉城デニー

## 29 第4章 40年のあゆみ

## 45 第5章 きずな

46 功労者・感謝状受賞者

47 寄附者及び協賛・協力者のご芳名

48 スタッフからのひとこと

57 所歌

58 あとがき





# 創立40周年記念式典



# 式 辞



独立行政法人国立青少年教育振興機構  
国立沖縄青少年交流の家

所長 佐藤 良一

本日ここに、衆議院議員 赤嶺政賢様、参議院議員 糸数慶子様をはじめ、多くの御来賓の皆様方の御臨席のもとに、国立沖縄青少年交流の家の創立40周年記念式典を挙行できますことは、所長として誠に光栄であり、大きな喜びとするところであります。

国立沖縄青少年交流の家は、渡嘉敷村の名誉村民ともなっておられる故山中貞則元大臣の御尽力と、当時の玉井喜八村長はじめ村民の皆様方の熱意により、昭和47年5月の沖縄の祖国復帰を記念して、この美しい渡嘉敷島に全国第10番目の「国立青年の家」として設置されました。

顧みますと、開設の当初は、米軍基地の残骸がそのまま残る荒涼とした敷地を改修し、利用することから始まりました。その後、当時の文部省はじめ多くの関係者の方々の献身的な御努力によって、本日式典を挙行しております管理研修棟や浴室棟の新営工事、また、宿泊棟や食堂棟の改修工事などが完了するなど、順次施設の整備が進み現在の充実した施設になりましたが、米軍時代のミサイル発射台やミサイル格納庫などの撤去には、設置から更に昭和55年3月まで、およそ8年という長い年月を要することとなりました。

国立沖縄青少年交流の家は、昭和47年の設置以来、地元渡嘉敷村とは相互に運命共同体として、地域の社会教育や経済の発展にも大きく貢献するとともに、渡嘉敷島の立地条件を生かした平和学習や海洋研修、自然体験学習などを通じて、地域と密接にかかわり、この40年間には、沖縄県内をはじめ全国から220万人を超える青少年が相集い、我が国の社会の担い手となる青少年の成長する場と機会を提供してまいりました。

戦後我が国は、高度経済成長期を経て著しい発展を遂げてまいりましたが、その一方で、都市化、情報化、少子化、国際化や価値観の多様化などが進み、青少年が体験的に学習する機会や、他者と直接的にコミュニケーションを図る機会が減少するなど、青少年を取り巻く環境が著しく変化してきており、今こそ次代を担う青少年が、自然体験や社会体験など様々な体験活動を通じて、健やかな身体と、他人を思いやる心や規範意識など豊かな心を育み、社会の一員として成長するよう手立てを講ずることが所長の私に課せられた大きな責務であると考えております。

40年前、この沖縄、渡嘉敷島の景勝の地に、国家、社会の未来を展望し、国立沖縄青年の家を設置された先輩各位の英知と御努力に改めて敬意を表しますとともに、これまで深い御理解と御支援をいただきました、本日御臨席の皆様をはじめ関係各方面の皆様に厚くお礼を申し上げます。

結びに、私どもは、この国立沖縄青少年交流の家が設置をされた歴史的な意義に思いを馳せ、本日の創立40周年を大きな節目として、国立沖縄青少年交流の家に課せられた使命を踏まえ、職員一丸となって、その職務に邁進して参る決意を改めて表明いたしまして、式辞といたします。

平成24年10月20日





独立行政法人国立青少年教育振興機構  
理事長 田 中 壮一郎

この度、国立沖縄青少年交流の家は開所40周年を迎えることができました。当施設が、我が国第10番目の国立青年の家として昭和47年5月に、沖縄の本土復帰を記念して設置されて以来、延べ約219万人の方々に、様々な体験活動の機会と場を提供し続けてこられましたのも、ひとえに関係各位の深い御理解と変わらぬ御支援の賜物であり、心より感謝を申し上げます。

当施設は、慶良間の青く美しい海に囲まれた離島に立地していることを活かし、様々な自然体験活動を展開してきました。特に、無人島での長期キャンプは、開所翌年の昭和48年から今日まで継続的に実施し、無人島での試練を乗り越え、目的を達成する感動体験の場を提供してきました。また、沖縄戦における慶良間諸島での痛ましい出来事を今なお物語る集団自決跡地等を実際に見学し、その背景を学び、平和への祈り、命の尊厳等を学習する平和学習プログラムを提供し、平和を希求する青少年の育成にも取り組み続けてまいりました。

今日、子どもたちの学力低下が心配され、いじめや自殺、不登校といった子どもたちを取巻く状況が社会問題化しています。同時に、子どもたちの体力に目を向けてみますと、平成19年以降若干向上していますが、昭和61年頃から長期にわたり低下傾向が続いていました。いじめをなくし学力を高めるためにも、子どもたちの体力を向上させ、やる気や頑張る気持ち、我慢する力、思いやる心などを育成することが大切ではないでしょうか。

従来、子どもたちは、家庭や地域で、異年齢の子どもや大人との様々な活動を通して、体力はもとより、発達段階に応じ必要な資質を育みながら成長してきたと思います。しかし、近年の子どもたちの日常を見ますと、様々な社会の変化の中で、従来のような成長過程に即した多様な活動を体験できない子どもが増加しております。今後は、これまで以上に各地域において、保護者はもとより地域の大人が協力・連携し、意図的・計画的に地域の子どもの様々な活動の機会や場を作るなど、地域の人々が協力して家庭や地域の教育力を高めていくことが重要です。

こうした状況を踏まえ、当機構では、青少年関係団体と連携し、子どもたちの体験の重要性を広く家庭や社会に普及啓発し、様々な活動の促進・充実を図ることを目的とした「体験の風をおこそう」運動を展開しています。是非とも、皆様方の御協力と御支援をお願い申し上げます。

最後に、改めまして、今日まで御支援いただきました地元関係者の皆様をはじめ、全国の関係各位に心から感謝を申し上げますとともに、引き続き、当施設及び当機構の諸活動に御協力、御支援を賜りますことをお願い申し上げます。

平成24年10月20日

# 挨拶

〽 開所40周年に寄せて 〽



# 祝 辞



文部科学省大臣官房  
審議官 山 脇 良 雄

このたび、国立沖縄青少年交流の家が、開所40周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

国立沖縄青少年交流の家は、沖縄県の祖国復帰を記念して、昭和47年5月、国立青年の家の第10番目の施設として設置されました。

開所以来、ラムサール条約にも登録された世界でも有数の透明度を誇る海に囲まれた魅力あふれる渡嘉敷島の自然環境の中で、マリンスポーツをはじめ、サンゴ礁の観察を通じた地球温暖化等の環境学習や、無人島アドベンチャーキャンプなど、渡嘉敷島の特色を活かしたプログラムの開発等に力を注がれ、全国各地の青少年に自然体験活動の場を提供してまいりました。

また、スポーツ施設も大変充実しており、中でも、平成13年に設置されたボクシング場は、国立青少年教育施設唯一の施設であり、ロンドンオリンピックにおいて、ボクシング競技として48年ぶりに日本に金メダルをもたらした村田選手は大学時代にこの地で合宿を行っていたと伺っております。

この国立沖縄青少年交流の家もメダル獲得に少なからず、貢献されたのではないのでしょうか。

このように多くの青少年に、体験活動をはじめとする、様々な活動の機会と場を提供するために、歴代の所長をはじめとする関係者の皆様に多大なご尽力をいただいたことに対し深く敬意を表します。

さて、今日の青少年を取り巻く環境は著しく変容し、少子高齢化、都市化などの影響を受け、青少年の社会的自立の遅れなどの問題が非常に深刻になっており、青少年教育施設には、次代を担う青少年への教育の場として、学校教育だけでは経験できない自然体験、生活体験など多様な体験活動を提供する重要な役割を担っていくことが求められています。

現在、中央教育審議会においては、青少年の体験活動の推進の在り方について審議が進められており、8月には中間報告がまとめられました。現在は、年内の答申の取りまとめに向けて、さらに審議が進められているところですが、この審議状況も踏まえ、文部科学省といたしましても、青少年の体験活動の推進及び青少年教育施設の充実にしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

国立沖縄青少年交流の家におかれてましては、このたびの40周年を大きな節目として、これまで以上に青少年のニーズや社会の要請に応え、地元関係機関との連携を密にし、先導的な事業の開発や地域社会への貢献に努められ、さらなる飛躍を遂げられることを切に願っております。

結びに、これまで国立沖縄青少年交流の家に寄せられた地元沖縄県、渡嘉敷村をはじめ、関係各位の御支援・御協力に対し、心より感謝申し上げますとともに、今後のさらなる発展のために一層の御支援を賜りますようお願い申し上げますお祝いの言葉といたします。

平成24年10月20日



沖縄県教育委員会  
教育長 大城 浩

# 祝 辞

独立行政法人国立青少年教育振興機構国立沖縄青少年の家が創立40周年を迎え、本日ここに、記念式典が挙行されるにあたり一言ごあいさつを申し上げます。

国立沖縄青少年の家は、昭和47年5月に沖縄県の祖国復帰を記念して設置され、40年の長きにわたり、めぐまれた自然環境の中で、心身ともに健全な青少年の育成を図り、社会教育の振興に大きく貢献していただきました。

毎年の利用者数はおよそ7万人を数え、地域の特色を生かした主催事業などに取り組み、人気の高い「無人島アドベンチャーキャンプ」や青少年の自立を支援する「いきいき自然体験キャンプ」等は、充実したプログラムとして高く評価されております。先日行われました「アジアの架け橋、沖縄スリランカプロジェクト」～「命と平和」を未来へ～では、両国の青少年が「命と平和」を育んできた歴史や文化を語り合い、学び合い未来へつなぐアジアの架け橋として国際的な視野に立ち、活躍できる青少年の育成を図る等、両国の友好に大きな役割を果たしました。

これまで、地域に愛される施設として、その役割を果たすことができましたのも、地域の皆様のご支援と歴代所長はじめ、職員のご努力の賜であります。長きにわたる御尽力に対し、衷心より感謝を申し上げます。

さて、現代、物質的に豊になった反面、核家族化や少子高齢化など、社会環境の変化に伴って、人と人との関わりが希薄化している状況にあります。そのような中、青少年にとって様々な形で人や自然とふれあい、学んでいく機会をもつことは重要となり、ますます当施設への期待が大きくなっております。

青少年教育振興機構が実施した調査でも、「豊かな体験」が規範意識や意欲などの向上につながるということが指摘されております。また、社会の変化に伴う体験活動の減少や体験格差が懸念されております。中央教育審議会においても「新しい時代に求められる青少年教育の在り方について」諮問され、国民的な議論の対象になっております。

沖縄県教育委員会は、「国立沖縄青少年交流の家」との間で平成23年12月に「包括的連携に関する協定」を学ばせていただきたいところであります。今後、ますますその重要性が増大する青少年の体験活動について、学校教育と社会教育を一つとする学社融合の視点も踏まえ、連携協力して参りたいと考えております。

結びに、国立沖縄青少年交流の家がこれまで以上に多くの利用者に親しまれ、発展していくことを願いますと共に、本日、御参会の皆様のますますの御健勝と御活躍を祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。

平成24年10月20日







渡嘉敷村村長  
座間味 昌 茂

# 祝 辞

本日ここに、国立沖縄青少年交流の家が創立40周年の節目を迎えるに当たり、地元渡嘉敷村を代表してお祝いの言葉を申し上げます。

昭和47年の創設以来、青少年の健全育成を担う施設として、地域の特性を活かした魅力ある研修プログラムを実施し、これまで県内外から多くの研修団体を受け入れ、地域社会への貢献はもとより、本村の振興発展にも大きく貢献してきたことは、ご承知のとおりであります。

顧みますと、昭和47年の佐藤・ニクソン会談で、昭和47年に沖縄が本土復帰することが決定され、米軍フォークミサイル基地を、当時の沖縄担当国務大臣であられた山中貞則氏が、行政視察で訪問された際に誘致が決定されたものであります。

山中大臣は回顧録の中で、「がら空きの兵舎を見ているうちに、ここを国立青年の家にしたらどうだと思いついた。海の向こうには那覇の灯りが見えるが、泳いで渡れる距離ではない。島に閉じこもって体力づくりに勉強に没頭するには絶好の場所ではないか。」と心境を綴っておられ、その時の村長懇談会の中で、沖縄に国立の青年の家を設置したいという構想があり、この基地跡地が最適であるとの考えを示されたものであります。

その後、山中大臣や文部省及び関係機関のご努力により、青年の家の設置が決定し、昭和48年6月24日河野文部政務次官をお迎えし、国内で10番目となる「国立沖縄青年の家」の開所式が盛大に挙行されました。本村の歴史の1ページを飾るにふさわしい施設の誕生で、当時の村長、故玉井喜八氏をはじめ、村民ごぞって青年の家の開所をお祝いし、その喜びようは今でも深く私どもの心の中に残っております。

あれから40年、幾多の施設改修や環境整備等が行われ、今日の充実した施設を見るに至っておりますが、これも偏に文部科学省や関係機関及び歴代の所長、職員の皆様方のご努力の賜であり、あらためて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

これまで当交流の家での研修を積んだ多くの青年が、社会の各界各層で活躍されていることと思いますが、今後とも次代を担う多くの若者が渡嘉敷島に集い、自然豊かな環境の中で研修を深めていただきたいと願っております。

開所以来、国立沖縄青少年交流の家と渡嘉敷村は、双方が運命共同体と位置づけており、常に密接な関わりを持って行動を共にしております。

社会情勢の変化に伴い、施設運営を取り巻く環境についても、変化を余儀なくされる状況もあるかとは思いますが、本村としてはいかなる状況の中においても、青少年の健全育成を担う研修施設としての使命を果たせるよう、引き続きバックアップしていく所存であります。

最後になりましたが、本日の40周年の節目を機に、交流の家のますますのご発展と、ご列席の皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げ、祝辞といたします。

平成24年10月20日



ボランティア 代表  
鋤塚 薫

## 活動報告

「自然」「体験」「仲間」この3つがあれば、人は変わります。なぜなら、私自身が、変化を実感した一人だからです。4年間ボランティア活動を続けてきたからこそ、青少年教育には大きな夢と無限の可能性が詰まっていることを確信しました。

今年9月に行われた「いきいき自然体験キャンプ」に参加した時のことです。様々な理由で適応指導教室に通う生徒達が、簡単に帰宅することができない離島で3泊4日のキャンプを無事に終えることができるのだろうか、という不安が参加者同様私にもありました。キャンプの目的が、生徒の自己肯定感を高めることだったので、私は、「説明する、自主的に動くのを待つ、褒める」この関わり方を繰り返し行うよう心がけました。徐々に生徒達が自主的に動くようになり、2日目の食事の準備は、朝昼夜3回とも火熾しにチャレンジしていました。そんなやる気みなぎる姿に、私も元気をもらいました。麻布に火がついた時の跳んで喜ぶ姿は、とても印象的でした。また、私は生徒に対して特別扱いしないよう心掛けました。なぜならば、「自分は学校に通えないから普通じゃないんだ」という気持ちにさせたくなかったからです。楽しい食事の後には、真っ黒い頑固な汚れがついた鍋をカ一杯擦って綺麗にする作業があります。私は片付け場所の食器庫の前に仁王立ちし、汚れが落ちるまで何度も挑戦させました。周囲の生徒に、「一人で磨くのではなく、一緒にやると早いかもよ」など他の班と競争させ楽しく取り組めるように声かけを工夫しました。ある中学3年生男子は3度目にやっと合格をもらった時、「ヨッシ」とガッツポーズとって喜んでいました。

生徒達は何度も諦めたかったかも知れません。しかし、私達がしっかり見守り、最後まで諦めない姿勢を持ち続ければ、生徒も私達の気持ちを受け取ってくれます。子どもが少しずつ変化する過程に関わると、ボランティアとしてのやりがいを実感できます。また、このような体験を通して、子どもには無限の可能性があると気づき、その可能性を広げる自然体験活動にすばらしい魅力を感じています。

ところで、4年間ボランティア活動を続けてきて、特にボランティアに対する意識が変わった事業がありました。それは、「九州地区国公立青少年教育施設ボランティア交流会」です。発表準備のため、施設の役割やボランティアをする意識などについて一緒に参加する他のボランティアと話し合いを重ねました。その中で、これまで「楽しかった」だけで終わっていた活動でしたが、体験から何を学んだのかなど振り返りを行う重要性に気が付くことができました。

青少年教育施設は、地域や地域の自然が大切な資源になります。地域の本質的な部分に目を向けて活用していくことこそが施設に関わる一員として大切であると思います。交流会をきっかけに、積極的に渡嘉敷島の人々と関わりを深めたり、文化や歴史を勉強するようになりました。その結果、単なる施設利用を超えて、渡嘉敷島が好きになり一層ボランティア活動を精力的に取り組むことができました。

来年からは新社会人としてこれまで学んできたことを活かし、大人や地域の人を巻き込みながら社会全体で青少年教育活動を展開していきたいと考えています。

平成24年10月20日







佐藤所長の式辞



桑原理事の挨拶



山脇審議官の祝辞



大城教育長の祝辞



座間味村長の祝辞



ボランティア代表 鋤塚さんの活動報告





## 記念式典 Ceremony

### 式典式次第

場所：国立沖縄青少年交流の家講堂

日時：平成24年10月20日【土】 12時00分～12時50分

- 1 開式 司会：国立沖縄青少年交流の家次長 田山 宗則
- 2 国歌斉唱
- 3 式辞 国立沖縄青少年交流の家所長 佐藤 良一
- 4 挨拶 独立行政法人青少年教育振興機構理事長 田中壮一郎
- 5 来賓祝辞  
文部科学省スポーツ・青少年局局长 久保 公人  
沖縄県教育委員会教育長 大城 浩  
渡嘉敷村村長 座間味昌茂
- 6 来賓紹介・出席歴代所長紹介
- 7 活動報告 ボランティア代表 鍛塚 薫
- 8 功労者表彰、感謝状贈呈
- 9 閉式 司会：国立沖縄青少年交流の家次長 田山 宗則



佐藤所長、栗原理事、座間味村長、大城教育長、山脇審議官





式典会場



司会の田山宗則次長



ご来賓







会場の様子

功労者表彰



高額寄付者・協力者への感謝状



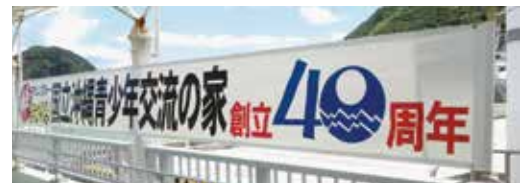
## 式典開始までの風景



渡嘉敷港待合所



渡嘉敷港での出迎え 慶良間太鼓の勇壮な演舞



高速船乗り場



いよいよ接岸



下船風景



下船風景



受け付け風景



受け付け風景



式典を待つ来賓

# 創立40周年記念祝賀会











## 祝賀会 Celebration

### 祝賀会次第

場所：レストランちゅうらうみ

日時：平成24年10月20日【土】

13時00分～14時30分

- 1 開会 司会：国立沖縄青少年交流の家 上條 弥生
- 2 アトラクション1  
かぎやで風 渡嘉敷村琉球古典芸能愛好者の会
- 3 主催者挨拶 国立沖縄青少年交流の家所長 佐藤 良一
- 寿 祝辞 参議院議員 糸数 慶子  
衆議院議員 赤嶺 政賢  
とかしき会会長 早川 忠光

- 5 乾杯 渡嘉敷村議会議長 小嶺 源市
- 6 アトラクション2  
慶良間太鼓 慶良間太鼓同志会
- 7 アトラクション3  
エイサー 渡嘉敷村青年会
- 8 閉会 司会：国立沖縄青少年交流の家 上條 弥生

## 祝 辞

参議院議員 糸 数 慶 子

沖縄の本土復帰を記念して設立された「国立沖縄青少年交流の家」の創設40周年を心よりお喜び申し上げます。

独立行政法人国立青少年教育振興機構が運営に当たります「国立沖縄青少年交流の家」は、その設立趣旨にあります通り、近年、核家族化や都市化の進行といったライフスタイルや社会状況の変化を背景に、家庭や地域の教育力の低下、規範意識や人間関係の希薄化、問題行動の多発等、子どもたちをめぐる様々な課題が生じている現状に対し、子どもたちに豊かな人間性や社会性をはぐくむための施設として設立されたものであります。

沖縄青少年交流の家には、これまで220万人が訪れており、その実績は高く評価されるべきあり、集団宿泊活動においては生活ルールや仲間との協力の大切さを学び、極めて意義深いものだと思っております。

また渡嘉敷村においては、去る沖縄戦という歴史的背景から「強制集団死」のあった島として、全国あるいは海外からも平和を学ぶ島としても知られています。次世代に平和の尊さを伝えていくという重要な学習の場として、ますます重要性が増していくものと思われれます。

沖縄青少年交流の家の40周年を契機として、さらに青少年の健全育成の重要性と、全国に渡嘉敷村の自然環境の素晴らしさと広大なキャンパスを生かした体験活動等を発信され、青少年交流の拠点として発展されますことをご期待いたします。

平成24年10月20日



糸数議員



渡嘉敷村の関係者



慶良間太鼓同志会による演舞



渡嘉敷村議の方々





赤嶺議員



渡嘉敷村の関係者



前村長・前副村長と懇談



渡嘉敷村青年会によるエイサー

## 祝 辞

衆議院議員 赤 嶺 政 賢

国立沖縄青少年交流の家が創立40周年を迎えたことを本当に嬉しく思います。国立青少年交流の家のある渡嘉敷島は本島の私の自宅から見晴らせる位置にあり、島が最も美しく見える日が一番の沖縄日和です。先の沖縄戦で「強制集団死」など辛い歴史を刻んだその渡嘉敷に国立沖縄青少年交流の家が出来て、豊かな緑に囲まれながら、多くの子ども達が平和を学び、体験活動を通して感受性豊かな社会人として成長することが出来ました。

私も高校教師として教師仲間とともに、「見える学力」の向上とともに「見えない学力」の向上にも取り組んでまいりました。学科の勉強だけでは補えない子どもたちの豊かな感受性や社会性など「見えない学力」の向上に大きな役割を果たして来たのが国立沖縄青少年交流の家であります。

今後も沖縄のそして全国の子どもたちが豊かに成長していけるように、国立沖縄青少年交流の家に十分な予算措置がとられるよう私も頑張って参ります。本日はまことにおめでとうございました。

平成24年10月20日

# 祝賀会風景



佐藤所長の挨拶



とかしき会早川忠光会長の祝辞



小嶺源市渡嘉敷村議会議長による乾杯の音頭



幕開け『かぎやで風』(渡嘉敷村琉球古典芸能愛好者の会)



太鼓演舞 (慶良間太鼓同志会)



エイサーの演舞で会の閉め (渡嘉敷村青年会)





ご来賓の方々



参加者懇談



糸数議員を囲んで



県内県立教育施設の所長も参加



本島からようこそ



特別料理でおもてなし



渡嘉敷村のみなさん





乾杯！



カチャーシー



いつでもどうぞ！



新鮮な刺身をどうぞ！



懇談風景





沖縄の定番!! 最後は、カチャーシーで終わり!



懇談風景





40年の歴史パネル展



慶良間太鼓でお見送り



フェリーの見送り



船での別れは紙テープで



スタッフ一同見えなくなるまで！

# 寄稿・メッセージ







ロンドンオリンピック  
ボクシングミドル級  
金メダリスト

## 村田 諒 太

沖縄青少年交流の家、創立40周年、誠におめでとうございます。  
私自身、学生時代の合宿や、全日本チームでの合宿で大変お世話になりました。施設の中にはボクシング場も設置されており、合宿場所としても最適な環境です。大自然を駆け抜けるロードワークも、都会では味わえない気持ちよさがあり、アップダウンの激しい坂道や、透き通った海辺にある砂浜などで足腰を鍛えることができ、同じ内容を都会で行っていたら、とても耐えられないようなメニューも、自然の素晴らしさが後押ししてくれて、最高の練習ができました。

また、2011年の合宿の際には、村民駅伝大会にも参加させていただき、地元の方々の温かさを感じることができました。私は最終区の区間記録を塗り替えることと、3位から1位に上げるために必死で坂を登りましたが、両方とも実現できませんでしたので、是非、再チャレンジしたいと思っております。  
オフの日にはレンタルサイクルで渡嘉敷島を一周するなどしてリフレッシュすることが出来、観光場所としての素晴らしさも改めて感じました。

オリンピックでのメダル獲得も、ここで培った持久力や、皆様からいただいた温かいサポートのお陰と心より感謝しております。

今後ともこの施設を活用させていただき、私だけではなく、一人でも多くの人間が、渡嘉敷島の素晴らしさに触れる機会を作っていければと思っております。

最後になりましたが、50周年、100周年という未来に向けて、益々のご発展を心より祈念しております。

平成24年10月20日





ロンドンオリンピック  
ボクシングバンダム級  
銅メダリスト

清 水 聡

国立沖縄青少年交流の家創立40周年、誠におめでとうございます。

私は沖縄というと、まず、渡嘉敷島を思い浮かべます。泊港から高速船に乗るときは、逃げ場のない強制収容所に連行されるような想いで乗船していました。それは、阿波連ビーチでの砂浜ダッシュ、アップダウンの厳しい島1周ロード、青少年の家でのジムワーク等どれも地の利を活かした過酷なトレーニングが強行されていたからです。ナショナルチーム強化合宿虎の門ならぬ、ハブの門となっていました。しかし、合宿を乗り越えられたのも、冬に暖かい気候、きれいな空気、豊かな自然、温かい島民の皆様、そして、なにより周りに何もない環境がボクシングの練習に打ち込ませてくれたと思っています。

また、一昨年の渡嘉敷村駅伝大会では、飛び入り参加させていただき、村の子供達と同じ気持ちで走ったのが、思い出深く残っています。

そんな最高の環境で練習してきたことがロンドンオリンピックの銅メダルにつながったと感謝しております。

これからは、いろんな形で国立沖縄青少年交流の家を利用するとともに、出来る範囲でPRもしたいと思っています。

最後に、国立沖縄青少年交流の家の末永い存続と益々の御発展、また、渡嘉敷島村民皆様のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、私のお祝いの挨拶とさせていただきます。

平成24年10月20日



寄

稿



参議院議員

島尻 あい子

国立沖縄青少年交流の家創立40周年記念式典及び祝賀会が盛会に開催されますこと、心からお祝い申し上げます。

「渡嘉敷島での体験活動を通して学び合い、豊かな感性をはぐくみ、青少年の社会性を養う」を教育目標として、青少年に関する様々な教育事業の実施や研修活動の支援をなされておりますことに深甚なる敬意を表します。

佐藤所長をはじめ職員の皆様におかれましては、この日を迎えられる感慨はひとしおのことと拝察いたします。このうえは、輝かしい伝統と信用を活かし、更に一層のご発展をとげられますようご期待申し上げます。

結びに、本日のおめでたい日に、ご参集された皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

平成24年10月20日

郵政民営化・防災担当大臣  
衆議院議員

下地 幹郎

国立沖縄青少年交流の家」は、復帰後建設された施設でございますが、その間多くの方に活用され、私は同施設の充実に奔走した記憶がございます。

しかし、昨今は同施設の存続問題が浮上するなど、解決を要する課題もございますが、同施設は、離島の振興、本県の観光発展のためにも必要不可欠な施設だと認識をしており、そのため私は施設の充実強化に力を注いでいるところでございます。

同施設は独立行政法人の所管ではございますが、行政の区分はなく、村・県も一体になって交流の家の活用にご尽力を願う次第です。

40周年を機に同施設が多くの皆様にご理解をいただき、ますます発展することを祈念申し上げ、御挨拶といたします。

平成24年10月20日

衆議院議員

瑞慶覧 長敏



メ  
ッ  
セ  
ー  
ジ

このたびは国立沖縄青少年交流の家創立40周年記念式典の開催、誠に  
おめでとうございます。衷心義お祝い申し上げます。

人と人、人と自然との触れ合いなど、この沖縄青少年交流の家が40年間  
に培った体験と交流は貴く、それは、施設を利用された方一人ひとりの心  
の中に生きているものと拝察いたします。

40年の施設運営を支えてこられたすべてのご関係者の皆様方に、改めま  
して心から敬意を表します。

全国で10番目の「国立青年の家」が設置されたこの渡嘉敷島は、珊瑚  
礁の海に囲まれた、美しく、自然豊かな慶良間諸島の拠点です。同時に、  
1945年3月の沖縄戦では、数百に及ぶ米軍艦艇からの砲爆撃を受け、沖縄  
本島上陸作戦の補給基地として占領される中、非道の極みである「集団自  
決」により数多くの住民の命が失われた場所でもあります。このような渡  
嘉敷島が、全国「青少年交流の家」の一翼を担っている意義を改めて認識  
する次第です。

いじめ、不登校、あるいは、年間3千数百人に及ぶ30歳未満の自殺者な  
ど、今般、青少年が向き合っている社会状況は決して楽観できるものでは  
ありません。

そうした中、この「沖縄青少年交流の家」が、利用者の皆様に、人生を  
見つめ直す新しい機会や得難い経験を提供する舞台として、なお一層の役  
割を果たすことを心から期待しております。

結びに、本日までご来臨の皆様のみすますのご健勝とご多幸を心から祈念し、  
お祝いのメッセージとさせていただきます。

平成24年10月20日

衆議院議員

玉城 デニー

このたびは、国立沖縄青少年交流の家創立40周年記念式典並びに祝賀会  
のご盛会、誠にありがとうございます。

このような日を迎えられたのも、ひとえに関係各位皆様のご尽力の賜で  
あるとご拝察申し上げます。ラムサール条約に登録される程素晴らしい自  
然環境の中で過ごす子どもたちにとってかけがえのない体験となることは  
言うまでもありません。

これまでの伝統を活かしつつ、さらなるご発展と関係各位皆様の益々  
のご健勝を心からお祈り申し上げます。

平成24年10月20日





# 40 年のあゆみ

—写真より 40 年の歴史をふりかえる—







# 昭和34-52年度

1958 - 1978

THE HISTORY

## 昭和34年度

- 昭和35年 3月8日 渡嘉敷村へホークミサイル基地建設が告知
- 3月22日 米民政府より土地収用宣告、接収命令

## 昭和37年度

- 6月1日 基地完成。約250人の米兵駐留

## 昭和44年度

- 8月2日 基地閉鎖  
(閉鎖後も米軍管理下に置かれる)

## 昭和46年度

- 昭和47年 2月28日 沖縄青年の家の設置準備始まる。文部省の森田清青少年教育課長補佐を団長に10名の視察団が来島し、調査に当たる

## 昭和47年度

- 5月15日 沖縄の祖国復帰  
祖国復帰を記念し「国立沖縄青年の家」設置
- 5月17日 記念式典挙行。卓球場（現ボクシング場）横のポールの星条旗を降ろし、日本の国旗である日の丸を掲揚
- 7月1日 本館工事開始
- 11月1日 仮事務所を設置（現中央公民館敷地内）  
海洋研修場の選定・整備始まる
- 昭和48年 3月16日 所旗を制定（安次富長昭琉球大学教育学部教授がデザイン）

## 昭和48年度

- 4月27日 海洋研修船、和船「あさかぜ」（5トン、定員12名）とクルーザー「トリトン号」（4.5トン、定員8名）配備
- 5月1日 本館完成。管理事務及び研修業務を開始
- 5月4日 最初の研修団体として、熊本県荒尾



1. 設置決定を祝う式典（本館施設内）左から玉井村長、金城所長、今村社会教育局長、津嘉山県教育長他青年の家職員（昭47.5.17）  
 2. 国旗掲揚（設置を祝う式典）／3. 看板を掲げる金城所長（昭47.11.1）／4. 最初の研修団体受け入れ（昭48.5.4）  
 5. 「第一けら丸」就航（昭48.5.15）／6. 開所式 左から今村社会教育長、河野政務次官、金城所長、川崎青少年教育課長  
 7. 開所式における文部大臣式辞（河野洋平文部政務次官）（昭48.6.24）／8. キャンプ場ダム造成作業の職員（昭50.2）  
 9. 「わかしお」就航（昭49.11.12）／10. にし山に「あさぎ」（茅ぶき小屋）を建てる職員（昭52.2）／11. 開所時の職員集合写真

5月10日～12日 市の平井青年教室11名を受け入れ  
 最初の主催事業「宿泊研修担当者研修」を開催  
 5月15日 「第一けら丸」（定員465名）就航  
 6月1日 職員宿舎完成  
 一戸建て4棟と長屋形式宿舎  
 6月24日 河野洋平文部政務次官をはじめ、沖縄  
 県関係及び渡嘉敷村関係者を招き、  
 盛大に開所式を挙げる  
 7月4日 4隻（1隻9名定員）のカヌーを配備  
 昭和49年2月17日 柔道場開き

### 昭和49年度

8月29日 体育館新営工事に着手  
 11月12日 緊急連絡艇「わかしお（定員20名）」  
 が就航  
 昭和50年1月 キャンプ場ダム建設開始（3月完成）

### 昭和50年度

5月1日 体育館完成。11日に落成式

昭和51年3月31日 海洋研修場の艇庫が完成  
 カヌー引き上げ用ウインチ設備設置

### 昭和51年度

7月27日～30日 主催事業「高校生海洋研修」で、第19  
 回メキシコオリンピック大会マラソン  
 銀メダルの君原健二氏が特別講演  
 12月1日～4日 主催事業「集団宿泊指導担当者研修」で、  
 プロ野球の元読売巨人軍監督で文部省初等中  
 等教育局視学委員の川上哲治氏が特別講演  
 昭和52年1月5日 西展望台付近に、「あさぎ（茅葺き  
 ～2月28日 小屋）」を職員で建築

### 昭和52年度

10月1日～2日 主催事業修了者数名がキャンプファ  
 イヤー場の整地作業を実施  
 昭和53年3月15日 キャンプ場のシャワー棟が完成  
 男女別にシャワー室、便所、更衣室が完備  
 テント保管用倉庫も完成  
 3月31日 ラバーコール仕上げのテニスコートが完成





1

# 昭和53-60年度

1977 - 1986

THE HISTORY

## 昭和53年度

- 11月29日 キャンプ場の周囲にハブ侵入防止用の網を設置
- 昭和54年 3月27日 第1 宿泊棟各研修棟、講師棟の窓枠をアルミサッシに改修

## 昭和54年度

- 4月1日 琉球大学、沖縄県教育委員会との職員の人事交流に関する覚書及び申し合わせ取り交わす
- 11月12日 宿泊棟の便所の改修工事着工

## 昭和55年度

- 8月13日 キャンプ場ハブ防止用塀新設工事開始
- 12月5日 ミサイル発射台、ミサイル格納庫等を撤去し、総合グラウンドのための整地工事開始

## 昭和56年度

- 8月14日 海洋研修監視船「にしやま（定員8名）」を配備
- 10月20日 第2 ミサイル基地跡撤去工事開始





2



3



4



5



6



7

1. 旧米軍基地ミサイル発射台、発電所跡／2. ハブ防止ネット／3. 創立10周年式典／4. 創立10周年祝賀会  
5. ヒータティヤー跡／6. 総合運動場開き／7. 1981年頃のトカシクビーチ（おきなわグラフより）



## 昭和57年度

- 5月15日 創立10周年記念事業として、赤間山のヒータティヤー跡に史跡碑を建立
- 10月1日 創立10周年を記念して、旧職員寄贈による魔除け「シーサー」（具志川焼窯元：名護宏明氏制作）を本館正面玄関前に設置
- 11月7日 創立10周年記念式典・祝賀会を举行
- 昭和58年3月30日 西展望台のミサイル発射台、旧米軍発電所の撤去作業が完了

## 昭和58年度

- 5月15日 総合運動場開き  
故裁弘義氏の指導の下、沖縄水産高校と豊見城高校の硬式野球招待試合を開催
- 12月16日 旧米軍施設の一部を改修し、野外研修センターとして転用

## 昭和60年度

- 昭和61年2月3日 浴室棟のボイラー取り替え工事完了
- 2月28日 体育館外部壁面等補修工事完了
- 3月15日 旧木工室を卓球場棟に移動し、談話室に改装
- 3月31日 講師棟内部模様替え工事完了



# 祝創立15周年記念式典



## 昭和61 - 平成4年度

1986 - 1993

THE HISTORY

### 昭和61年度

- 昭和62年 3月17日 第1 宿泊棟内部の様様替え工事完了
- 3月27日 本館講師室及び同浴室の内部様様替え工事完了

### 昭和62年度

- 9月26日 創立15周年記念事業として、第1回「渡嘉敷村まつり」が渡嘉敷港棧橋をメイン会場に開催  
この祭りで「慶良間太鼓」「渡嘉敷村まつり音頭」「阿波連音頭」が誕生

- 11月7日 創立15周年記念式典挙行
- 3月28日 本館周辺に、ハブ侵入防止用コンクリートハブ塀一部1,200mが完成

### 昭和63年度

- 6月1日 バイキング給食を開始
- 7月9日 第2回「とかしまつり」を本所体育館を主会場に開催
- 平成元年 1月7日 年号が「昭和」から「平成」となった



2



3



4



5



6



7

1. 創立15周年記念式典／2. 本館ハブ堀一部完成／3. フェリーけらま就航／4. 第1回渡嘉敷村まつり  
5. 50万人達成セレモニー／6. キャンプ場バンガローを建築する職員(S62.7)／7. 20周年記念碑除幕式

### 平成元年度

11月12日 フェリーけらま(定員594名)就航  
400名以上の大型団体の一度での乗船が可能になる

平成2年3月12日 体育館の改修工事完了  
床をゴムから板張りに交換

### 平成2年度

12月22日 延べ宿泊利用者50万人達成セレモニー開催

平成3年3月25日 キャンプ場のシャワー・トイレ棟の2棟目工事が完了

また、本館管理研修棟2階講堂、ロビー、大研修室のタイルの貼り替えと和室の改修工事が完了

### 平成3年度

11月26日 キャンプ場給水管改修工事が完了

### 平成4年度

11月6日 創立20周年記念式典を挙行  
平成5年3月8日 キャンプ場屋根付き炊飯場新営工事が完了  
3月31日 食堂棟及び第一宿泊棟(さんご)の冷房設備工事が完了





1

# 平成5 - 11年度

1993 - 2000

THE HISTORY

## 平成5年度

平成6年3月15日 緊急連絡艇「かりゆし（定員15名）」を配備

## 平成6年度

12月5日 宿泊施設「すばる棟（定員60名）」が完成。各部屋トイレ、バス付きでホテル並みの設備になる

平成7年2月28日 山城博明氏撮影のパネル写真「沖縄の自然」をロビーに展示

## 平成7年度

平成8年3月13日 環境教育の一環として「海の展示資料室」を管理研修棟1階に設置し、ジオラマ、写真パネル、模型等を展示

3月15日 体育館屋根外壁面等補修工事が完了  
3月25日 海洋救助艇「にしやまⅡ（定員11名）」を配備

## 平成8年度

10月31日 本館のハブ防止用コンクリート塀増設工事が完了。今回で、敷地内全面を取り巻く2,890mの塀が完成

平成9年3月21日 キャンプ場身障者用スロープ敷設工事が完了



1. 第3宿泊棟（すばる）完成（平6.12.5）／2. 第18回村駅伝優勝／3. 「竜神」配備／4. とかしき会結成

## 平成9年度

- 8月13日 延べ宿泊者数80万人達成セレモニー
- 11月18日 本所の愛称を「マリンブルーとかしき」に選定
- 11月29日 国立沖縄青年の家OB会「とかしき会」の結成
- 12月25日 新しい職員宿舎が完成
- 平成10年3月20日 本館玄関前車寄せ建築工事が完了
- 3月25日 キャンプ場緊急避難用バンガロー（あざみ）が完成

## 平成10年度

- 平成11年3月31日 大型カヌー竜神（定員21名）を1艇配備

## 平成11年度

- 7月1日 施設ボランティアの受入を開始
- 12月10日 本館に身障者用リフト、トイレ、スロープを設置
- 平成12年3月7日 本館アルミサッシ窓の取り替え、暴風戸、身障者用トイレ、事務室カウンターを設置





1

# 平成12-14年度

2000-2003

THE HISTORY

## 平成12年度

- 7月1日 高速船「マリンライナー（定員200名）」就航
- 11月11日 宇宙飛行士毛利衛氏、来所し講演

- 平成13年 3月9日 キャンプ場第2シャワー棟の全面温水化工事完了
- 3月27日 新食堂棟（ちゅうらうみ）が完成。定員180名





2



3



4



5



6



8



7



9

4. 新食堂「ちゅうらうみ」完成 (H13) / 2. 高速船マリンライナー就航 (123 総トン) (H 12.7.1)  
 3. 宇宙飛行士毛利衛氏来所講演 (H12) / 4. オリンピアン巡回指導谷口浩美氏来所講演 (H12)  
 5. 衣笠祥雄氏来所講演 (H13) / 6. ボクシング場開き (H13)  
 7. オリンピアン巡回指導 山下佐知子さん (H14) / 8. 衆議院議員山中貞則先生来所 (H14)  
 9. 所内の東西展望台に案内板設置 (H14)

## 平成13年度

4月1日 独立行政法人国立沖縄青年の家へ移行  
 12月22日 ボクシング場のリング開き

## 平成14年度

11月4日 山中貞則衆議院議員来所。  
 11月30日 渡嘉敷村名誉村民推挙式典祝賀会に出席  
 創立30周年記念式典を举行





1



2



3

THE HISTORY

# 平成15-16年度

2003 - 2005

## 平成15年度

- 平成15年 4月19日 野球場開きセレモニーとオープニングゲーム（糸満高校対沖縄工業高校）開催
- 7月11日 キャンプ場外灯設置工事
- 7月17日 日本グラウンドゴルフ協会より本所グラウンドゴルフ場が認定コースとして承認
- 7月27日 レスリングマット開き及びレスリングメダリスト太田章氏による実技講習会を開催
- 9月24日 喫煙室設置工事（本館管理等2階ロビー、すばる棟ロビー）
- 平成16年 3月25日 キャンプ場スロープ改修工事
- 3月25日 浄水場設備改修工事
- 3月31日 食堂棟野外バーベキュー場パーゴラ板張り及びデッキ改修工事  
東展望所整備及び芝吹き付け防災工事

## 平成16年度

- 平成17年 3月25日 第一宿泊棟（さんごA）耐震改修工事完了  
浄水場水揚ポンプ設備等改修工事  
浴室棟避雷針改修工事  
浄化槽設備改修工事  
電話交換設備改修工事

1. ボランティアセミナー（H15年4月）／2. いきいき自然体験キャンプ（H15年10月）
3. カヌーフェスタ in とかしき（平成15年9月）／4. エンジョイ・シーカヤック in とかしき（H16年11月）
5. スポーツマネジメントセミナー（H16年11月）／6. 野外活動ステップアップ研修会（H16年1月）



40

4



5

6





1



3



2

THE HISTORY

# 平成17-18年度

2005-2007

## 平成17年度

平成17年11月14日  
平成18年2月28日

アテネ五輪競泳女子金メダリストの柴田亜衣氏による講演  
 第一宿泊棟（さんごB）耐震改修工事完了  
 体育館玄関ドア及び本館玄関シャッター改修工事  
 耐雷対策工事／環境配慮改修（アスベスト除去）工事／管理研修棟照明改修工事  
 管理研修棟空調設備整備／井戸水切り替え工事

## 平成18年度

平成18年4月1日  
平成19年2月18日

独立行政法人国立青少年教育振興機構へ移行  
 マラソン銀メダリストの君原健二氏によるランニング教室開催  
 管理研修棟電気室アスベスト除去工事  
 水源地ポンプ取替工事  
 浄水場配管取替工事  
 野球場防護ネット一部張替工事  
 浴場配管等取替工事

1. 第32回無人島に挑む全国青年の集い 一人ビバーク（H17年8月）／2. 渡嘉敷島ふれあい学習（H17年9月）
3. 夢を語る高校生のつどい（H18年2月）／4. 親子サマーチャレンジ（H18年9月）
5. 君原健二氏によるランニング教室（H19年2月）／6. ボランティアの集い（H19年2月）



41

4 5



6





1



2



3

# THE HISTORY 平成19-20年度

2007 - 2009

## 平成19年度

平成19年 講師棟宿泊室内改修  
つつじ棟配管改修  
本館研修棟電気ポンプ改修

## 平成20年度

平成20年 宿泊棟「すばる」の壁面改修、講師室、ビジタールームの一部リニューアル  
12月 クロスカントリーコース整備  
12月29日 ボクシング全日本チームが本所で強化合宿  
平成21年2月15日 元Jリーグ選手前田治氏によるサッカー教室を開催

1. アジアの十字路口 一渡嘉敷島での出会い (H 20年1月) / 2. 美ら島クリーン活動 (12月)
3. 高校生サマーキャンプ (8月) / 4. ボラスキルアップセミナー (11月)
5. とかしくスノーケリングツアー (H 21年3月) / 6. トップアスリート(前田治選手)派遣指導サッカー教室 (H 21年2月)



4



5

6







1



3



2

THE HISTORY

# 平成21-22年度

2009 - 2011

## 平成21年度

平成22年2月末日 宿泊棟・研修棟・浴室棟耐震補強完了  
 3月31日 つつじ棟解体工事完了／既設給水槽をステンレス給水槽へ切替  
 すばる棟1階ロビーへ和室を新設／多目的ホールをマルチルームへ改修

## 平成22年度

平成23年1月13日 日本アマチュアボクシングの村田諒太選手、清水聡選手が本所で8日間の合宿  
 2012年ロンドン五輪にて村田選手は金メダル、清水選手は銅メダルを獲得  
 1月25日 渡嘉敷村と包括的連携に関する協定を締結。主な内容としては次のとおり  
 1. 両機関が有する知的資源、人的資源及び物的資源の活用に関すること  
 2. 教育、文化及びスポーツの振興に関すること  
 3. 自然・環境の保全に関すること  
 4. その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること  
 3月15日 基幹・環境整備工事完了（管理棟・体育館・講師棟・野外研修棟・浄水設備・浄化槽設備・非常用発電整備・艇庫管理棟）

1. ボランティアセミナー（4月）／2. 野外活動スキルアップセミナー（5月）／3. とかしき島環境フォトフェスタ（H22年3月）
4. さんごわんだーわーどナイトスノーケル（6月）／5. 最後の青年対象無人島事業 追い込み漁（8月）
6. 遊びリンピック スリッパ飛ばし（10月）／7. 渡嘉敷村と連携協力協定の締結（H23年1月）



4



5



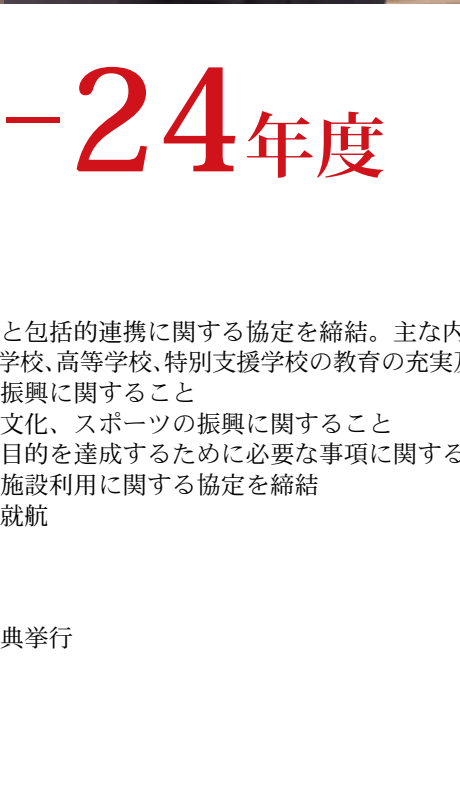
6



渡嘉敷村 国立沖縄青少年交流の家  
 連携協力協定 締結式

7





THE HISTORY

# 平成23-24年度

2011 - 2013

## 平成23年度

- 平成23年12月19日 沖縄県教育委員会と包括的連携に関する協定を締結。主な内容としては次のとおり
1. 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校の教育の充実及び教員の資質向上に関すること
  2. 青少年教育の振興に関すること
  3. 生涯学習及び文化、スポーツの振興に関すること
  4. その他上記の目的を達成するために必要な事項に関すること
- 平成23年12月26日 渡嘉敷村と避難所施設利用に関する協定を締結
- 平成24年3月24日 フェリーとかしき就航

## 平成24年度

- 平成24年10月20日 創立40周年記念式典挙行

1. 無人島アドベンチャーキャンプ2011 (H23年8月) / 2. 教員免許状更新講習 part.1 (H23年8月)
3. 沖縄県教育委員会と協定書調印 (H23年12月) / 4. 沖縄スリランカプロジェクト (H24年9月)
5. 第5回沖縄和太鼓交流フェスタ (H24年12月) / 6. 体験の風をおこそうフォーラム in 沖縄 (H25年1月)



# き ず な





# 功労者・感謝状受賞者

## 功労者表彰

約 20 年の永きにわたり、当所の運営委員また運営委員会会長として、当所の事業運営の充実発展、青少年教育の振興、青少年の健全育成に多大なる貢献を賜りました。

功労者 玉寄 哲永 氏

## 感謝状贈呈

### 【協力者】

当所の事業活動への深いご理解のもと、永年にわたり事業運営へのご理解をいただき、青少年教育の振興、青少年の健全育成に多大なる貢献を賜りました。

渡嘉敷村  
慶良間太鼓同志会  
渡嘉敷村青年会  
とかしき観光バス合同会社  
株式会社 沖縄ダイケン

### 【高額寄附者】

この度の 40 周年記念事業に対し、多額のご寄附をいただきました。

株式会社 東恩納組  
株式会社 国際印刷  
株式会社 東信興建  
沖縄砂利採取事業協同組合



感謝状贈呈者



感謝状贈呈の様子



# 寄附者及び協賛・協力者のご芳名

国立沖縄青少年交流の家創立40周年記念事業の実施に当たり、多大なご貢献をいただきましたことに感謝の意を表し、ご寄附及び協賛・協力いただいた皆様のご芳名を紹介させていただきます。温かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。

※寄附者の掲載は、順不同です。また、敬称は省略させていただいております。

## 寄附者

### 法人

(株)沖縄ダイケン／(株)国際印刷／(株)マリンランド商会／沖縄水質改良(株)／(株)芝岩エンジニアリング  
(株)上原土木／沖縄食糧(株)／オリオンビール(株)／(株)球建設／琉球日産自動車(株)／(株)東恩納組  
北斗設計(株)／(株)嶋猿／(有)とかしきマリンビレッジ／(株)興洋電子／アイランズトリップ／(株)関西総合ビル管理  
(株)照正組／民宿&レンタルサービスかりゆし／山城砂販売所／ジーマ・高瀬物産(株)／とかしき観光バス合同会社  
(株)東信興建／(株)森山写真商会／沖縄綿久寝具(株)／ファースト・メモリー／ヤシマ工業(株)／渡嘉敷村  
(株)きんだい通商／(株)加島事務機／マエダ電気工事(株)／(株)久米島の久米仙／沖縄砂利採取事業協同組合  
我喜屋商店／(有)ゼンオキ食品／(有)設計集団閃／沖縄ペプシビレッジ(株)／I.M.S.アイランド・マリン・サービス  
有限会社オリンピア運動具店／沖縄県金融協会

### 個人

新垣良子	赤嶺孝幸	兼島善広	中井 博	新垣千代子	新垣正忠・キヨ	吉原立巳	
西村洋志	松本富子	古波蔵善子	増山一豊	新垣信行	伊波繁光	山入端立守	小嶺良昇
吉田 忠	金城 豊	金城信子	加藤裕香子	米浜美智	池松 来	島村 清	源 曜子
玉城一博	小嶺幸信	宮平ツル	新崎和枝	玉城英史	小嶺 均	小嶺節子	呉屋之雄
仲門勇市	真栄城潔	久志 要	秦 成彦	小嶺勇夫	米田 真	小嶺正雄	安里和矢
古波蔵利範	吉浜安次郎	岩根 勉	平良正哉	長谷和典	小禄 茂	岩下清二	小西憲一
小禄茂貴	仲村幸子	大濱善秀・昭美		金城 孝	金城房子	稲守信子	小嶺信行
瑞慶覧長幸	宮里和宏	大城辰秀	新里武光	東恩納香苗	安里フサ	大城政連	宇良宗政
平良初子	平良政吉郎	田村良祐	高良安昌	松本好勝	金城節子	小嶺重郎	小嶺基子
棚原盛一	棚原盛夫	兼城嘉代子	小嶺トシ	小嶺春子	神里敏光	知念清子	知念竹治
米田文子	西原盛浩	川本芳春	石川新徳	島袋武之	上原幸得	金城 満	梅津孝一
財部二千六	番田武六	新垣英光	稲嶺盛純	木村清一	門元繁政	門元安雄	門元めぐみ
門元トミ	富里盛信	平良徳弘・浪子		新里光子	赤嶺良雄	服部英二	細田幸弘
玉城孝和	伊禮静雄	上原雅志	宮里昇二	新垣勉好	花岡 勉	大城良孝	佐久本勝彦
照屋 智	中村 元	山城明美	宮平昌治	松田 崇	本田真理子	扇長聡江	大城秀幸
神里敏明	仲里 健	仲里恵子	小嶺正之	山里 望	中谷三男	新里隆志	小嶺智治
早川忠光	與那嶺あかね	稲福 真	新垣隆二	渡辺哲二	大木 哲	新垣 聡	上原助勝
玉城 真	伊森 保	古波蔵広喜	仲村栄次	山城榮子	小嶺安雄	阿波連小学校職員一同	
渡嘉敷幼稚園 小中学校職員一同			にしまや会	吉川嘉勝	黒島直人	安里練雄	古波蔵善之介
国吉栄治	新垣克子	我喜屋保	玉城広喜	棚原栄子	富里常男	古賀静子	新垣重光
島 初雄	仲宗根勉	古賀安雄	金城健一	比嘉政信	座間味秀勝	當山徳子	當山清林
富里好枝	高山朝夫	興津綾子	我如古清	渡久地政信	仲宗根明	伊波 寛	垣花正男
大兼一夫	岡部幸生	勝又 廣	新垣一典	新垣光枝	伊佐盛信		

以上の方の他、掲載辞退者が1社、30名いらっしゃいます。

### 協賛・協力者

【団体】 渡嘉敷村 慶良間太鼓同志会 渡嘉敷村青年会 渡嘉敷村琉球古典芸能愛好者の会  
とかしき観光バス合同会社 (株) 沖縄ダイケン 日本水路協会

【個人】 藤原史明 新里武光 新垣勉好



スタッフからのひとこと♪







#### 次長 田山 宗則

記念すべき創立 40 周年事業に職員として関わられたことに感謝。台風 21 号の影響による船舶欠航（5 日間）により、直前の準備で職員の皆さんには大変迷惑をかけたが、職員はもとより食堂スタッフ、ボランティア、役場職員、バス組合等のチームワークで盛会にやり遂げることができ、事業に関わっている皆さんに大感謝。私がこの国立沖縄青少年交流の家（青年の家）と出会って 30 年、渡嘉敷のすばらしい海と共に施設の永遠の存続を願う。



#### 事業支援室長 兼久 和也

40 周年記念事業に向け、今回、私は招待班及び祝賀会班を担当しました。招待リストの作成、案内状の印刷・発送等式典までの日々はとにかく忙しい毎日でしたが、無事記念式典等の事業を開催することができました。

残念ながら式典には参加できませんでしたが後日出席者から「すばらしかった」等の声を聞き、成功を確信しました。

渡嘉敷村在住の方々、村職員、ボランティア、OB 等多くの方のご協力で成しえた記念式典・祝賀会だったと思います



#### 管理係長 大宜見 一画

台風 21 号による船の欠航のため、式典直前まで島に戻れず、職員の皆さんには大変迷惑をかけました。しかし、私の微力が欠けたことなど問題にならないくらい、職員を始め関係者各位の抜群のチームワークで大成功を為し、ほっとしつつも嬉しく思います。40 周年という節目に職員として赴任し、このような貴重な経験ができて良かったと思います。



#### 管理係主任 東恩納 寛昌

平成 9 年に採用され、創立 30 周年・40 周年事業を迎える事が出来ました。これまで沖縄青少年交流の家を支えて下さった、すべての皆様に感謝致します。現職では一番長く勤めさせていただいておりますが、創立 50 周年・60 周年事業まで現役で迎えられるよう、初心を忘れることなく頑張ります。





# スタッフからのひとこと♪



管理係員 富里 幸夫

現在、縮小傾向にある青少年機構で、30周年に続き40周年記念事業に参加する事が出来るとは思っていませんでしたが、こうやって40周年を迎える事が出来たのも、歴代の所長そして、先輩方や職員、利用者の皆さんのおかげです。30周年、40周年ともに島でとれた海や山の幸がテーブルに並ぶ光景を、50周年でも見せられるよう微力ながら頑張っていきたいです。残念ながら会えなかった方もおりましたが、これからも皆さんの健康とご発展を心よりお祈り申し上げます。



管理係員 與那嶺 悟

私は、渡嘉敷島出身で幼いときから、よくこの施設を利用していました。また私の父親が以前建設業をしていたので、ハブ塀の建築作業をよく手伝っていた事を思い出します。

そして、今回 職員として設立40周年記念式典に、参加出来たことをとても嬉しく思います。これからもこの島で、この青少年交流の家で出来た「絆」を大切に次は50周年に向けて頑張っていきます。



管理係員 池松 友加

渡嘉敷へ移住して2年目、少し島の生活にも慣れ、40周年というとても大切な節目の時に沖縄青少年交流の家で働くことになり、40周年記念に参加できたことを光栄に思っています。この施設を通していろいろなこと学び、また交友関係も広がり島での生活がとても充実したものになりました。これからも勉強し学んだことが生かせるよう頑張っていきたいと思います。



総務係員 金城 史弥

平成23年7月、晴れて国立沖縄青少年交流の家の職員となった。「これも何かの縁!こんな経験滅多に無いぞ!」と思ったことを今でも覚えている。実際縁とは不思議なもので、大学(県外)の後輩や高校の同級生、さらには保育園時代のお兄さんと一緒に仕事が出来ている廻り合わせには感慨深いものがある。マリンプルーの海を舞台とした仕事や共に働く仲間たち、充実したアフターファイブに欠かせない島民との絆は今後一生の宝となるだろう。月日の流れは早いもので、赴任期間も残り少ないが、島生活を精一杯満喫したいと思う。







### 総務係員 松田 忍

渡嘉敷島に住み始めて15年目。交流の家はよく利用していましたが、まさか自分が職員になるとは思ってもいませんでした。

平成24年4月から職員になり、まだ少ない期間ですが多くの方から刺激を得て多くのことを学ばせていただいています。そして、創立40周年という大切な事業に携われたことをありがたく感じております。40年という歴史の重さを受け止めながら、次なる記念の日を目指して誠心誠意努力していきたいと思ひます。



### 主任企画指導専門職 相澤 敬二

40周年おめでとうございます。このタイミングで職員として関わられたこと、たいへんうれしく思ひます。今回、台風の影響で定期船が欠航し、島外からの来賓をお招きしての式典及び祝賀会が出来ないのではないかと思いつつも取り敢えず準備を進めてきました。

奇跡的に開催前日に船が出たことと職員・食堂職員・村内関係者のチームワークにより大成功に終えたことは、私にとって人生の記憶に残る出来事でした。



### 企画指導専門職 赤嶺 智郎

台風で悩ませられた40周年でした。でもその分職員、食堂、そして渡嘉敷島の方々との結束が固まった40周年でした。

私は主に40年を写真でまとめました。その仕事を通して、ミサイル基地だった場所に、当施設が作られ、先輩達が、キャンプ場のシャワー、スロープなど色々なものを作り出して現在に繋がっていることが分かりました。

先輩方の熱い思いを引き継ぎ、さらに発展させられるよう努力していきたいと思ひます。



### 企画指導専門職 長谷川 真由

たくさんの人に出逢える仕事をしたと選んだ教員の道が渡嘉敷島へつながり、40周年という節目を大切な仲間と迎えることができました。記念祝賀会では島のみなさんをはじめ本所を支えてくださっているみなさんの笑顔が輝いていました。これからも素敵な笑顔があふれる施設作りのために全力を尽くしたいと思ひます。





# スタッフからのひとこと♪



## 企画指導専門職 比嘉 孝司

今年8月に赴任。毎日がめまぐるしく、気づけばもう半年経つ。40周年も無事成功裏に終わりようやく一息。

今回節目の年に、職員として携われたことにとっても感謝。学校教育から施設職員の立場に変わり、これまでとは違った青少年教育を実際指導・体験できたからだ（進行中）。

ミサイル基地から教育施設へと変貌し、国内でも気候・風土の面からユニーク（特異）な沖縄の地に立地。県内外にとどまらず、外国からも研修生を迎えてきた40年の実績は大きい。今後もその中核センターとして活用され続ける事を願います。



## 企画指導担当及びボランティアコーディネーター 上條 弥生

創立40周年記念事業に職員として関わることができ嬉しかったです。この施設にお世話になって6年、私自身が関わる形は変わってまいりましたが、ここで出逢う先輩方、仲間、ボランティアの皆さん、多くの方々に支えられ、この施設とともに生きてこられたことに感謝します。これからも大好きなとかしくビーチ、渡嘉敷の人々、豊かな自然とともに、この土地で私にできることを考え勤めてまいります。



## 事業推進係長 新里 勝

台風の影響もあり、無事に式典の日を迎えることができるのかという不安がありました。式典当日は天気も回復し、村役場を始め、村民の方々、関係業者等の多く寄附金のご協力のもと無事終了事に感謝しています。

これから先この国立沖縄青少年交流の家の存続のため頑張っていきたいです。



## 事業推進係員 宮里 慎吾

台風21号の影響もあり、無事に式典の日を迎えることができるのかという不安がありました。当日は天気も回復し、式典が無事にできて本当によかったです。村の関係者の方々、ボランティアの方々、食堂の方々、OBの方々、ご協力ありがとうございました。次の50周年の式典にはOBとして出席できることを楽しみにしています。







### 事業推進係員 樋口 真紀

創立 30 周年のときはボランティアをさせて頂いていたので、創立 40 周年という節目の年に職員として関わられたのは不思議な縁ですし、とてもうれしく思います。沖縄青少年交流の家の 40 年を様々な方法でつくってきた先輩方たちと直接お会いできたこと、お話ができたこと、笑顔を近くで見られたことに感謝しています。こういった出会いの場をなくさないように、大好きな渡嘉敷島で働けること、島のみなさんに感謝し、私にできることを考え精一杯がんばっていきたいと思います。



### 事業推進係員 宇榮原 健太

「40 周年記念のときに職員だった。」  
10 年後、50 周年のときに、後輩にそのように話せる日が来るのでしょうか。40 周年記念のおかげで写真や記念誌など、いろいろな形で私がこの事業に関わった足跡が残るので、つまりはこの国立沖縄青少年交流の家に足跡を残せたわけです。その足跡が目に触れられる機会が、この先、幾度かあるのでしょうか、「そういえば、あのとき宇榮原がいたな」と思い出してもらえるチャンスができました。嬉しいです。



### 事業推進係員 安和 良隆

私は、ほぼ事務所待機で電話対応でした。電話番では、電話もほとんどありませんでした。しばらくして、祝賀会担当の方と少しだけ電話番を代わり、祝賀会の手伝いに行きました。豪華な食事とお酒で祝賀会は大変にぎわっていました。OB の人とも、話したりしてとても有意義な時間をすごせたと思います。本当に、当日は疲れましたが、所の職員がひとつになって出来た数少ない事業だと思えます。この事業に参加できたことを大変誇りに思います。



### 事業推進係員 吉崎 誠

土から顔を出したあの若葉は今どんな花を咲かせましたか？凛と咲く大きな一輪花、咲き乱れる小さな花、それとも新たな希望の実をつけていますか？まだ蕾のまま寒い冬を耐え抜いていますか？僕は育むことが出来るわけもなく、見守ることすらできない。ただ、この島の光や水や思い出がいつか咲く花のきっかけにほんの少しでもなってくれば……。そして、僕の歩みがこの場所を次ぎへ繋ぐ一歩になれるのならば……。





# スタッフからのひとこと♪



運営補助 新里 なおみ

とても、素晴らしい40周年記念になったと思います。台風の影響で島外から来て下さる方々を、お迎え出来るか心配でしたが、所の職員達の「40周年を必ず成功させたい!!」思いが伝わり、無事式典、祝賀会が開催できた事、心より嬉しく思いました。そして、微力ながらお手伝いできた事を誇りに思います。



運営補助 久志 光子

台風の影響で危ぶまれた式典ですが、所長の熱意が伝わり無事に成功できた事を嬉しく思います。また、40周年という節目の場に微力ながら携われた事を感謝し、今後の糧にしていききたいと思います。今後の発展を心よりお祈り申し上げます。



レストランちゅうらうみ店長 小禄茂・邦子

国立沖縄青少年交流の家 創立40周年おめでとうございます。  
私たちが縁あって交流の家レストラン店長を努めて、早20年になります。20年の間には、沢山の人との出会いや、いろんなことを経験し学ばせて頂き、私たちの財産となりました。渡嘉敷島の自然に抱かれながら、4人の子ども達や私自身も成長したように思え感謝の気持ちでいっぱいです。これからも私たちの出来ることを精一杯務め、交流の家と共に歩いていけたらと願うばかりです。



ボランティア 竹内 弓人

沖縄青少年交流の家、創立40周年おめでとうございます。1972年の本土復帰と共に渡嘉敷島から青少年の体験活動を通じて学び豊かな感性を育み、社会性を養うという有意義な目標の元で多くの事業を継続され、関係者皆様方のご尽力に敬意を申しあげます。このような意義ある事業の中で、本年度からボランティアに参加させていただき、小中学生の子供たちと共に、マリンプルー体験やキャンプ・野外炊飯などを通じて、たくさんの感動を共にいただきました。これからも微力ではありますが島ボラとして事業に参画させていただきたく所存です。







**ボランティア 本田 恵典**

「国立沖縄青少年交流の家 40 周年記念事業」に参加する事ができ、とても光栄に思います。たくさんの方の力により記念事業が出来ているのだと感じる機会がたくさんありました。

また、心残りもあり、泊港での誘導はワクワクキャンプより緊張しました。事前に打ち合わせがあればもっといい物になったかと思えます。参加者の方に不安を覚えさせないようにしたいと強く思いました。

今までボランティアをやっていて年上の方の対応はとても難しかったですがいい経験をさせてもらいました。これからもボランティアを続けて記念事業等があれば力になりたいと思えます。ありがとうございました。



**ボランティア 鋤塚 薫**

40 年それは、私の人生の約 2 倍の年数だ。

長い間、この施設は青少年に活力を与えてきた。また、その施設を動かしていく立派な職員の皆様があり、「国立沖縄青少年交流の家」は今日まで活用され続けてきた。そのような長い歴史の節目に、私は活動報告をさせて頂き感謝の気持ちでいっぱいである。活動報告後、涙を浮かべ賛称して下さった方もいた。私はこの時、生涯、青少年教育活動に従事していきたいと心に誓った。

島ボラに参加しなかったら、素晴らしい職員の皆様、大切な仲間に出会えていなかっただろう。私にとって、これからも渡嘉敷島は出会いの詰まった場所となるだろう。



**ボランティア 杉浦 恵里子**

私は大学 2 年生の時から島ボラに参加し、その締めくくりのように、ちょうど 4 年生の時期に 40 周年記念事業に参加することができて、大変嬉しく感じました。文科省や渡嘉敷島の人、多くの人が集まった記念事業では、この国立沖縄青少年交流の家の 40 年間の歴史を感じることができました。多くの人に支えられてきたこの施設の過去を知って、その中で『今』を活動させていただいていることに感謝し、これからもボランティアを続けていきたいと思いました。

施設の職員の皆様、本当にありがとうございました。



**ボランティア 村山 愛**

この度、40 周年記念式典に際して職員の方をはじめ、関係者の皆様大変お疲れさまでした。改めて渡嘉敷島の素晴らしさを感じるとともに、この素晴らしさを沖縄県外問わず多くの人に体感してほしいと思う契機となりました。そして、職員の方、地元の方、ボランティアと交流し、他の方の渡嘉敷島に対する思いを知ることができ胸が熱くなりました。今後も時間が許す限り、ボランティアとして携わっていききたいと思います。ありがとうございました。







## ボランティア 上地 夏生

私は渡嘉敷ボランティアを通し、多くの人と知り合いました。“ボランティア”は大変で面倒なことだと思っていましたが、参加してみると、渡嘉敷の自然を通して多くの仲間ができました。また、子供を指導する立場から考え方や他人への接し方など、自分自身が成長する良い機会を頂きました。その中で40周年という記念すべき年に立ち合うことができ、とても光栄でした。この40年もの間、多くの人々が支えてきた歴史があるから、私がこのような体験が出来ることを感謝し、このボランティアが続くよう、これからも積極的に参加していこうと思いました。



## ボランティア 福田 竜平

私は2011年に初めてボランティアとして活動に参加させていただいたのですが、今回はこのような40周年という記念すべき日にボランティアとして式典等のお手伝いできたことを光栄に思います。この度の40周年記念事業に参加させていただき、自然体験活動のボランティアでは感じることでない、この施設についてやその歴史、厚みを感じることができました。普段の活動ではその事業や活動のことだけしか考えられないのですが、島の方々をはじめ様々な方々の支えがあるということを改めて感じました。このような支えがあることを忘れず、これからもボランティア活動を励みたいと思えました。この度は、40周年、誠にありがとうございます。



## ボランティア 宮城 勇貴

今回40周年の貴重な記念に参加させて頂きありがとうございました。多くの方々に青少年交流の家は支えられて、40周年の節目にボランティアとして参加でき嬉しく思います。また、自分自身も積極的にボランティアに参加し、渡嘉敷に貢献したいと思いました。

これからも、渡嘉敷・青少年交流の家に沢山の利用者が利用をして渡嘉敷にしかない、自然や海を知ってもらいたいと改めて強く感じました。

今回のボランティアは特に初めての事業で、交流の家職員の方々や島メンバーの方々には、本当にお世話になりました。今後とも宜しくお願い致します。



## ボランティア 赤田 佳史

今回の記念事業にボランティアとして参加できた事を私は光栄に思います。島民の皆さんや沖縄県内、県外から来賓された方々といういろいろなお話をさせて頂く機会となり、私自身の見識を広げる事にもなりましたので、貴重な時間を過ごせたと感じています。ボランティアの事業としましては、来賓の方々の受付・食事会での対応等をさせて頂いたのですが、どれもぎこちない対応となってしまう、来賓者、関係者の方々にはご迷惑をおかけしましたが、少ないながらもこの記念事業のお手伝いをできた事に感謝しております。最後に、これからも青少年交流の家の事業が発展する事を願っています。



これからも  
“沖縄青少年交流の家”を  
よろしくお願いします！



# 国立沖縄青年の家の歌

作詞 友寄景勝

作曲 岡村哲雄

♩ = 100

くろしーおおどる とかーしきの みど  
 りにはえーる にしーやーまに  
 きぼうのひかりはつらつと あしたをつくるわこうどわれ  
 らあーおきなわ せいねんのいーえ あた  
 らしきゆーめ こーこに さく

一、黒潮おどる 渡嘉敷の  
みどりに映える にし山に

希望のひかり はつらつと  
明日をつくる 若人われら

あゝ沖縄青年の家  
新しき夢 ここに咲く

二、さんごの海に 澄める空

渡嘉志久浜の 白浜に

歓喜の歌 あふれきて

明日を誓う 若人われら

あゝ沖縄青年の家

新しき友 ここに集う

三、紅そめる 山脈に

高い理想の陽がもえる

輝くひとみ たくましく

明日を担う 若人われら

あゝ沖縄青年の家

新しき力 ここに湧く

(昭和五十一年度発表)

## 愛称 マリンブルー とかしきの命名



命名者 嶋田 裕香 浦添市立港川小学校5年(当時)

本所は、世界に誇れる美しい海「慶良間海域」の渡嘉敷島に位置し、青い海や白い砂浜の中で年間を通して様々な活動をしています。このような美しい自然を有する当施設を象徴する親しみやすい海をイメージして愛称を制定した。



## あ と が き

台風 21 号の影響による長期の定期船の欠航により、式典の開催を決断することができたのが前々日という綱渡りのような厳しい状況でしたが、何とか開催にこぎつけることができましたのは、夜を徹して準備に当たった職員や食堂従業員の活躍はもとより、渡嘉敷村はじめ関係機関・団体、ボランティアの皆様のお心強い御協力のおかげでございますし、また、式典・祝賀会並びに写真展の開催、記念品の作成、記念誌の刊行など一連の記念事業の実施に当たりましては、渡嘉敷村はじめ村民の皆様、OB 各位、協賛企業・団体など、多くの皆様から御寄附並びに協賛・協力を賜りました。ここに誌面をお借りして心から厚くお礼を申し上げます。

私は、今回の 40 周年で改めて村民の皆様の当青少年の家に対する熱い思い、熱い期待、そして何よりも絆の強さというものを感じた次第であります。渡嘉敷村とは運命共同体、村民の皆様とは共存共栄を旨として、いつまでも村民の皆様に愛される施設創りに努めてまいり所存でございますので、引き続き温かい御支援、御協力をいただきますよう心からお願い申し上げます。

また、本誌は、この度の記念式典・祝賀会に御臨席いただいた方々はもとより、都合で御臨席いただけなかった方々を始め、日頃から御支援、御協力をいただきながら席数の関係で御案内を差し上げられなかった方々など、多くの関係者の皆様方の記憶と記録に残していただくべく、事後の刊行とさせていただきます。

私どもは、今から次の 50 周年に向けて当青少年の家の新しい歴史を作っていかなければなりません。関係各位の皆様方には、是非とも本誌を御高覧いただき、引き続きの御愛顧とともに、温かい御指導、御鞭撻をいただきますよう衷心よりお願い申し上げます、巻末の御挨拶とさせていただきます。

平成 25 年 3 月吉日

国立沖縄青少年交流の家  
所長 佐藤 良一



- 円は「OKINAWA」の頭文字「O」をあらわし、太陽と海（波）は「希望」と「発展」をあらわしています。
- 白は「清純」を、青は「深遠」を意味しています。（デザイン：琉球大学 安次富長昭教授）

---

## 創 立 4 0 周 年 記 念 誌

---

2013年3月27日 発行

編集・発行

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立沖縄青少年交流の家

〒901-3595

沖縄県島尻郡渡嘉敷村字渡嘉敷 2760

TEL：(098)987-2306 (代) FAX：(098)987-2318

<http://okinawa.niye.go.jp/>

E-mail:okinawa@niye.go.jp

印 刷

株式会社 国際印刷

〒901-0147 沖縄県那覇市宮城 1-13-9

TEL：(098)857-3385 (代)

---





NATIONAL  
OKINAWA  
YOUTH FRIENDSHIP CENTER